



ドローン・救助用ボート 運用開始訓練会

6月21日、西日本豪雨の災害復興事業として新たに整備したドローン（無人航空機）や救助用ボートを使って、高梁川湛井合同堰で水難救助活動の訓練会を実施。市消防や自主防災組織の関係者ら約240人が参加しました。



復興説明会

消防署昭和出張所と西公民館久代分館で6月21日、復興現地説明会を開きました。西日本豪雨で被害を受けた昭和・下原地区の住民に、復興に向けた取り組みなどを説明。意見交換も行いました。



神在地区合同防災訓練

大雨による河川の決壊を想定して6月30日、神在地区で防災訓練を実施。神在小学校区内全7地区の住民510人が参加しました。声を掛け合いながらそれぞれの避難所へ避難した後、神在小学校で土のう作りや簡易担架作り、応急手当の方法を市消防職員から学びました。

総社市への支援金
ありがとうございました

9億9948万円

西日本豪雨に伴う支援金は7月4日までに、9億9948万9939円（県からの義援金を含む）をお寄せいただいています。温かい支援に心よりお礼申し上げます。

■被害状況 リ災証明書発行件数（住家のみ）

全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊
84	171	373	523

7月1日現在

ボート操船訓練

7月2日、市営プールで救助用ボートの操船訓練を実施。有事の際、消防職員以外にも水難救助活動を行える人員を増やすため、消防団員や市職員ら約30人がボートの操作を学びました。



豪雨から1年後の今

総社市を襲い、多大な被害をもたらした西日本豪雨から1年。一周年式典や豪雨を教訓とした訓練などが行われました。



平成30年7月豪雨災害 一周年式典

7月6日、西日本豪雨犠牲者への追悼と復興の願いを込め、市役所で一周年式典を開催。被災者や災害支援ボランティアの参加者など約300人が出席し、黙とうや豪雨災害記憶プレートの除幕、献鶴などが行われました。

被災者を代表し、下原地区に住む浅沼涼さん（総社中1年）が、「がんばっている私たちが復興シンボルとなり、みんなを元気にすることでお礼をしていきたい」とメッセージを読み上げました。また、下原自治会の小西安彦会長は、「現在も、下原地区の50数戸の人たちが避難を余儀なくされている。これからも復興のため、支援をよろしくお願いします」と、維新小学校区地域づくり協議会の難波哲夫会長は、「総社市はまだ復興の途中。二度とこのような災害が起こらないよう祈ります」と話しました。



「頑張っているよ！昭和」 災害復興祭

7月6日と7日、昭和公民館周辺で昭和地区の災害復興祭が開催されました。昭和中学校と倉敷工業高等学校の吹奏楽部が楽曲を演奏。そのほか、歌やダンスなどのステージが披露され、訪れた人を楽しませていました。



みんな下原へ集まろう

下原公会堂前倉庫で7月7日、「みんな下原へ集まろう」が開催されました。下原復興委員会が同地区の復興状況を説明したほか、福山合戦太鼓の演奏などが行われました。